

2006年1月20日発行



# 日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.10

---

---

## 目 次

1. 新理事長 新年のご挨拶 理事長 山西 弘一……2
2. 第9回日本ワクチン学会学術集会を主催して 第9回学術集会会長 奥野 良信……2
3. ワクチン関連トピックス
  - 1) トピックスI『2006年4月からの麻疹・風疹の接種方法の変更』……………3
  - 2) トピックスII『日本脳炎ワクチン定期接種第三期の中止』……………4
4. 第10回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ 第10回学術集会会長 山西 弘一……5
5. 会員会告
  - 1) 2005年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録（2005年10月14日）……………6
  - 2) 第9回日本ワクチン学会総会議事録（2005年10月15日）……………7
  - 3) 2005年度第3回日本ワクチン学会理事会議事録（2005年12月9日）……………9
6. 2006-2007年度 日本ワクチン学会役員について……………10
7. 第1回（2006年）日本ワクチン学会高橋賞応募のご案内……………11
8. Vaccineオンライン購読について……………12
9. 学会事務局変更のお知らせ……………12

## § 新理事長 新年のご挨拶

日本ワクチン学会会員各位

日本ワクチン学会理事長  
山西 弘一

日本ワクチン学会の会員の皆様、明けましておめでとうございます。

本年1月より前任の清野 宏先生より理事長を引き継ぎました独立法人医薬基盤研究所の山西です。本年より2年間、理事、監事の皆様と共にこの学会を精一杯運営していく所存ですので、会員の方々のご支援、ご指導をお願いいたします。

この日本ワクチン学会は早くも10年にならんとしております。この学会が発足した当初、我国には細菌学会、ウイルス学会、臨床ウイルス学会、感染症学会等で微生物側よりの諸問題が討論され、小児科学会等では臨床的な問題が討論されてきました。そこで大谷 明先生をはじめ神谷 齋、倉田 毅、加藤達夫ともご相談し新たな枠組みでワクチンのポリシーを含むワクチン全体を討論する場が必要であるということになりました。当時は他の国にもワクチン学会は存在せず、世界に先駆けて設立しました。最初は100名足らずの参加者で始まったこの学会は現在会員700名を超え、年次総会の参加者も500名を越えるまでになりました。その後SARS、鳥

インフルエンザ等新たな感染症が現われ、予防法の開発はますます重要性を増しております。最近では我々の知らないところで、日本脳炎、MRワクチンの使用法の改定も行われ、会員の皆様にも混乱が生じております。この学会でもなるべく早くその対応をしたいと思っております。又、ワクチンは主として小児がターゲットでしたが、最近は小児のみならず、高齢者もターゲットになってまいりました。従って会員の構成にも変化が見られます。

前任者の清野理事長時代には学会事務センター問題が明るみに出て、清野先生はその対応にご苦労され、一応の収束を見ました。又良いニュースとしては日本ワクチン学会全体が雑誌「VACCINE」を公式ジャーナルとして登録し、ますますこの学会が国際的になってきたことです。清野先生のご努力に感謝いたします。

最後にこの学会がますます隆盛を極め、国民の理解される学会になれますことを期待すると共に、本年が会員の皆様にとって良い年でありますことを祈念いたします。

---

## § 第9回日本ワクチン学会を主催して

第9回日本ワクチン学会会長  
大阪府立公衆衛生研究所 奥野 良信

平成17年10月15日（土）、16日（日）の両日、大阪国際交流センターにおいて第9回日本ワクチン学会が開催された。参加者は約570名と過去最高となり、会員だけでなくワクチンに興味のある非会員の参加が多かったのが特徴であった。

今回の学会は、そのコンセプトを「開かれたワクチン学会」とし、ワクチンの専門家だけでなく、予防接種に携わる多くの人々が参加できるようなプログラムを編成した。特にシンポジウムには多くの時間を割き、十分な討議が行えるよう配慮した。シンポジウムⅠは「インフル

エンザワクチン」で、議論の多いこのワクチンの有効性について、各演者より分かりやすく解説してもらった。シンポジウムⅡは「国民のための予防接種とは」で、予防接種の必要性と課題について、シンポジストそれぞれの立場から考察してもらった。学会直前に結核、日本脳炎、麻疹・風疹の予防接種に関する改正が行われ、現場の予防接種担当者間で混乱があったので、それらについて解説と意見交換が行われたのはタイムリーであった。

海外からは3名の先生を招待し、それぞれの分

野の最新の情報を提供していただいた。その中でもKeiji Fukuda先生には、現在最もホットな話題である鳥インフルエンザについて紹介していただき、日本における新型インフルエンザ対策を考える上で大いに得るところがあった。  
一般演題は68題が発表され、この数もこれまで

での最高となった。内容も多岐に渡り、ワクチンが多くの分野の複合的な産物であることを認識した。さらに、ワクチン学は予防接種を通して国民の身近なところにあり、またそうでなければならぬとも感じた。ワクチン学会がさらに発展することを祈って閉会した。

## § ワクチン関連トピックス

### トピックス I

2006年4月から麻疹・風疹の接種方法が変更になります。

2005年7月29日、予防接種法施行令の一部を改正する政令、予防接種法施行規則および予防接種実施規則の一部を改正する省令（健感発第0729001号）が公布され、2006年4月1日から麻疹ワクチン、風疹ワクチンの接種方法、接種年齢が変更になる<sup>1)</sup>（図1）。

改正内容は、

1. 麻疹風疹混合生ワクチン (measles-rubella:MRワクチン)の導入
2. 2回接種法の導入

である。

国内の麻疹患者は、麻疹ワクチン接種率の上

昇により減少傾向にあり、この状況で導入された本改正は、麻疹、風疹対策上画期的なものであり、高く評価される。

しかし、今回の改正には、大きな制限が設けられている。

1. 2回接種の時期は1歳と小学校入学前1年間（4/1から3/31まで）のそれぞれ1年間であるが、2回接種の安全性、有効性が国内の研究で確認されるまでの当面の間、2回接種の導入は実施されない。
2. 定期接種として用いることが可能なワクチンはMRワクチンのみとなるため、

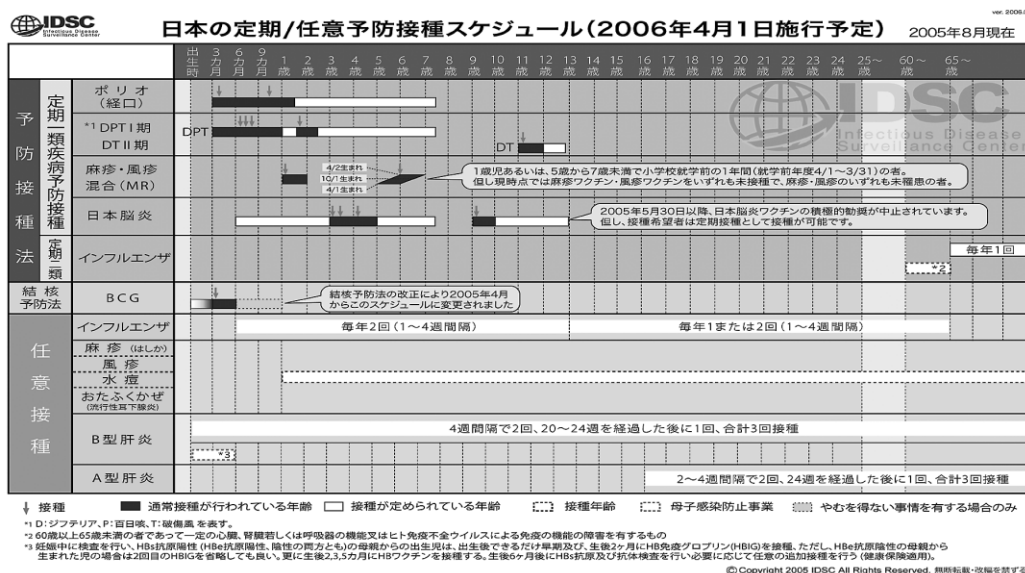


図1 国立感染症研究所感染症情報センターホームページ：予防接種情報 <http://idsc.nih.gov.jp/vaccine/dschedule/ImmJP-06.gif> より

麻疹単味（抗原）ワクチン、風疹単味（抗原）ワクチンの接種はいずれも任意接種の扱いである。

3. 2006年4月1日以降、当面の間、MRワクチンの定期接種対象者は、これまでに麻疹にも風疹にもかかったことがなく、麻疹ワクチンも風疹ワクチンも受けたことがない1歳児と小学校入学前1年間の小児（1回目の接種としてMRワクチンを接種）のみである。

以上の改正に対する技術的助言として、2005年8月3日に、厚生労働省健康局結核感染症課長通知が出されている（健感発第0803001号）<sup>1)</sup>。

その内容は、任意接種であることに変わりはないが、1歳児については、

1. 麻疹ワクチンは受けたが、風疹にかかったことがないものが、風疹ワクチンを希望する場合
2. 風疹ワクチンは受けたが、麻疹にかかったことがないものが、麻疹ワクチンの接種を希望する場合
3. 麻疹にかかったことがあるが、風疹ワクチンを受けたことがないものが、風疹ワクチンを希望する場合
4. 風疹にかかったことがあるが、麻疹ワクチンを受けたことがないものが、麻疹ワクチンの

接種を希望する場合

については、費用負担を定期接種と同等のものとなるように配慮すること、健康被害については、市町村が損害保険制度に加入する場合には、当該損害保険による給付等の対象となり得ること、と通知された。

今回の改正は、公布から5か月を経過した12月時点でも、多くの保護者にその情報が十分届いているとは言えないため、来年3月31日までに現在定期接種対象者（1歳から7歳半未満）であって、4月以降2歳以上になる小児の保護者に一刻も早くこの改正情報を伝える必要がある。

麻疹・風疹の排除eliminationを目標にする場合、3月までに十分な情報提供ができなかった場合は、何らかの更なる改善を行うことが必要であると考える<sup>2)</sup>。

文献

- 1) 厚生労働省ホームページ：予防接種対策に関する情報  
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/tp1107-1.html>
- 2) 多屋馨子、馬場宏一、佐藤 弘、上野久美、安井良則、新井 智、奥野良信、岡部信彦：緊急提言 改正 麻疹・風疹ワクチンはどう変わるか.小児科臨床.58：I-VII、2005

## トピックスⅡ

### 日本脳炎ワクチン定期接種第三期が中止になりました。

日本脳炎ウイルスに感染した人のうち、脳炎を発症するのは、100～1000人に1人程度であるが、一旦発症すると、20～40%は死亡、死亡を免れた場合でも、45～70%は精神神経学的な後遺症が残存し、小児では重度の障害を残しやすいと言われている。

近年、国内の日本脳炎患者報告数は年間10名未満と少なく、高齢者を中心とする患者発生である<sup>1)</sup>。しかし、現在においても西日本を中心として日本脳炎ウイルスはブタの間で蔓延していることが感染症流行予測調査事業により明らかになっている<sup>2)</sup>ことから、十分な注意が必要である。

2005年5月30日、定期の予防接種における日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨の差し控えについて（健感発第0530001号）が、厚生労働省健康局結核感染症課長から通知された<sup>3)</sup>。その後、2005年7月29日に公布された予防接種法施行令の一部を改正する政令、予防接種法施行規則および予防接種実施規則の一部を改正する省令（健感発第0729001号）により、公布当日から第三期（14歳～15歳）の定期接種が中止となった（図1）。

第三期が中止になった理由は、

1. 近年、日本脳炎発症者は主として数名の高齢者であること
2. 第三期の予防接種率が約50%であるにもか

かわらず、10歳代後半の発症者は22年間で1人のみであること

3. 日本脳炎予防接種により、平成元年度から平成16年度までに100件以上の健康被害の救済認定が行われていることによるとされる<sup>3, 4)</sup>。

積極的勧奨の差し控えについては、人工呼吸器装着に至る重篤な急性散在性脳脊髄炎 (acute disseminated encephalomyelitis: ADEM) 患者が、ワクチン後の健康被害認定を受けたことがきっかけとなっている。ADEMの副反応報告は平成3年度以降13例であり、平成15年度6例、平成16年度3例となっている。その内4例が重症である。今回認定された患者は呼吸停止状態に陥り、従来よりも重症であったことから、健康被害発生防止のため、より慎重を期して、積極的な接種勧奨をしないとされた<sup>4)</sup>。しかし、定期接種が中止となっているわけではないことから、同意書を記載の上、現在も定期接種として接種を受けることが可能である。また、積極的な勧奨が差し控えられている現在、日本脳炎のサーベイランス、急性脳炎のサーベイランスを一層強化することが必要である。

現在、日本で使用されている日本脳炎ワクチンはマウス脳を用いて製造されているが、ワクチン

中のマウス脳成分は検出限界以下である。しかし、一方でマウス脳由来成分による理論的リスクを心配する声もあり、これを回避するためにマウス脳を用いないVero細胞培養由来日本脳炎ワクチンの開発が進んでいる。新しいワクチンの使用が可能になれば接種の勧奨が再開されることである。

#### 文献

- 1) 厚生労働省、国立感染症研究所：日本脳炎特集号.病原微生物検出情報(月報)IASR. Vol.24, 2003  
<http://idsc.nih.gov.jp/iasr/24/281/inx281-j.html>
- 2) 全国日本脳炎ウイルス抗体保有状況調査(感染症流行予測調査事業).国立感染症研究所感染症情報センターホームページ  
<http://idsc.nih.gov.jp/yosoku/Smenu.html>
- 3) 厚生労働省健康局結核感染症課：日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨の差し控えについて.厚生労働省ホームページ  
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/05/tp0530-1.html>
- 4) 厚生労働省健康局結核感染症課：全国感染症主管課長会議資料.平成17年9月21日 (水)

---

## § 第10回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ (第1報)

第10回日本ワクチン学会学術集会を、平成18年10月21日(土)、22日(日)の2日間、全日空ゲートタワーホテル国際会議場にて開催することとなりました。シンポジウム、特別講演等を企画していますが、一般演題が充実していないと魅力あるワクチン学会にはならないと考えております。

是非、多くの方々のご参加と、演題発表をお願い申し上げます。

会 長：山西 弘一 (独立行政法人 医薬基盤研究所)

会 期：2006年10月21日(土) - 22日(日)

場 所：全日空ゲートタワーホテル国際会議場

〒598-8511 大阪府泉佐野市りんくう往来北1番地

TEL：0724-60-1111

FAX：0724-60-1177

事務局：〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎3-20-1 インターGビル

インターグループ内 第10回日本ワクチン学会 事務局代行

TEL：06-6372-8455

FAX：06-6376-2362

E-mail：vaccine@intergroup.co.jp

## § 2005年第2回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：平成17年10月14日（金）16：00－18：00

会 場：都ホテル大阪 3階 伊勢の間

出席者：清野 宏（理事長）、岡 徹也、奥野良信、加藤茂孝、喜田 宏、高見沢昭久、高橋理明、  
武内可尚、富樫武弘、中山哲夫 各理事、神谷 齊（監事）

欠席者：加藤達夫（副理事長）、庵原俊昭、岡部信彦、城野洋一郎、廣田良夫 各理事、倉田 毅（監事）、  
山西弘一（次期会長）

記録者：幸 義和（事務局）、中川庸幸（㈱春恒社）

### 報告事項

1. 前回議事録の確認  
清野理事長から前回理事会議事録の報告があり、本理事会で確認された。
2. 一般経過報告  
理事長から会員数・ワーキンググループの活動を含む一般経過報告があった。
3. 理事選挙結果について  
中山理事から理事選挙結果及び選出された7名の新理事候補者についての報告があった。  
新理事候補者は、以下の各氏である。  
田代真人（国立感染症研究所）、山西弘一（医薬基盤研究所）、浅野喜造（藤田保健衛生大学）、神谷 齊（国立三重病院）、上田重晴（阪大微生物病研究会）、大隈邦夫（化学及血清療法研究所）、谷口清州（国立感染症研究所）
4. 第9回日本ワクチン学会学術集会について  
奥野会長から第9回日本ワクチン学会学術集会についての説明があった。
5. 第10回日本ワクチン学会学術集会  
理事長から第10回日本ワクチン学会学術集会が平成18年10月21－22日、大阪（全日空ゲートタワーホテル・国際会議場）で開催予定であるとの報告があった。
6. 平成17年度一般会計中間報告  
高見沢理事より平成17年度会計中間報告及び財産目録の報告があり、了承された。
7. ニュースレター・ホームページ関連報告  
理事長の指示により欠席の岡部理事に代わって、中川氏から12月発行予定のニュースレターの内容に関する報告があった。
8. 日本ワクチン学会学術誌としてのVaccineオンライン購読の進捗状況  
理事長からVaccineの本学会学術誌化に関するエルサビア社との契約案等（英文）の説明がなされ、原案の方針にて契約締結に向けて準備を進めることが確認された。
9. 会則の改定（会費値上げ）について  
理事長から本年度第1回理事会で承認された会費値上げ（正会員10,000円、学生会員3,000円）についてのホームページを使ったお知らせと意見聴取についての一般報告があった。

## 審議事項

1. 会則の改定（年次学術集会次期会長理事会出席に関する付則の追加（他））について  
理事長から会則4条の文言統一、年次学術集会次期会長理事会出席に関する付則等についての説明・報告がなされ、承認された。
2. 平成18年度一般会計・高橋記念基金会計予算案  
高見沢理事から日本ワクチン学会平成18年度一般会計収支予算（案）及び高橋記念基金会計予算（案）についての説明・報告がなされ、承認された。
3. 日本ワクチン学会高橋賞について  
清野理事長から日本ワクチン学会高橋賞創設の趣旨及び高橋賞規定並びに選考委員会内規及び応募要綱についての説明・報告があり、承認された。
4. 第11回学術集会会長候補について  
理事長から第11回学術集会会長として、倉田監事（国立感染症研究所・所長）が推挙され、承認された。
5. 多年度会費滞納者の除籍について  
理事長からワクチン学会会則付則に従って、滞納による除籍者の名簿提示とその取り扱いについての報告があり、本理事会で慎重な審議がされた。その結果、本付則を以下のように改定することが提案され、承認された。  
「3年間会費を滞納したものは、理事会の議を経て退会扱いとする。ただし未納分を払えば再入会できるものとする。」

## その他

加藤 茂孝理事から日本ワクチン学会として、長期的展望をもった常設の専門家による「ACIP（予防接種実施に関する諮問委員会）設立」を各種学会と連帯して厚生労働省に働きかけてはどうかという提案があり、本提案のワーキング委員として加藤（茂）、喜田、富樫各理事及び神谷監事が当たることが決められた。

---

## § 第9回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：平成17年10月15日（土）13：10－13：40

会 場：大阪国際交流センター 大ホール

総会議長：第9回日本ワクチン学会学術集会会長 奥野良信

### 1. 報告事項

#### 1) 一般経過報告

清野 宏理事長から平成17年度活動状況、ニュースレター、会員数を含む一般経過報告があった。

#### 2) 理事選挙結果報告

中山哲夫理事から理事選挙結果及び選出された7名の新理事候補者についての報告があった。

新理事候補者は、以下の各氏である。

田代真人（国立感染症研究所）、山西弘一（医薬基盤研究所）、浅野喜造（藤田保健衛生大学）、神谷 齊（国立三重病院）、上田重晴（阪大微生物病研究会）、大隈邦夫（化学及血清療法研究所）、谷口清州（国立感染症研究所）

## 2. 議事

- 1) 会則の改定（年次学術集会次期会長理事会出席に関する付則の追加 他）  
清野理事長から会則4条の文言統一、年次学術集会次期会長理事会出席に関する付則及び未納者の退会扱いに関する付則についての説明・報告がなされ、承認された。
- 2) 会則の改定（会費の値上げ）について  
高見沢昭久理事から会費の値上げ（正会員10,000円、学生会員3,000円）に関する会則付記についての説明・報告がなされ、承認された。なお会費値上げに関連して、日本ワクチン学会学術誌としてのVaccineについての進行状況とエルサビア社との契約締結についても合わせて報告された。
- 3) 平成16年度決算及び平成16年度会計監査について  
高見沢理事から平成16年度決算案報告がなされ、引き続き神谷監事から平成16年度会計監査報告がなされ、平成16年度の決算案が承認された。
- 4) 平成18年度予算案について  
高見沢理事から平成18年度予算案の報告がなされ、承認された。
- 5) 日本ワクチン学会高橋賞について  
清野理事長から日本ワクチン学会高橋賞創設の趣旨及び高橋賞規定並びに選考委員会内規及び応募要綱についての報告があり承認された。
- 6) その他  
加藤 茂孝理事から日本ワクチン学会として、長期的展望をもった常設の専門家による「ACIP（予防接種実施に関する諮問委員会）設立」を、各種学会と連帯して厚生労働省に働きかけてはどうかという提案・説明があり、理事会一任で進めていくことが確認された。

## 3. 第11回学術集会会長の推挙

清野理事長から第11回学術集会会長として倉田 毅監事（国立感染症研究所・所長）が推挙され、承認された。学術集会会長の推挙に先立って、理事長から会員に本年12月をもって任期満了・退任の挨拶があった。

## 4. 次期会長挨拶

第10回日本ワクチン学会学術集会 山西弘一 次期会長より挨拶があった。

## 5. 第9回学術集会会長挨拶

第9回日本ワクチン学会学術集会 奥野良信 会長より挨拶があった。



## § 2005年度第3回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：平成17年12月9日（金）16：00～17：30

会 場：東京大学医科学研究所 総合研究棟 4階会議室

出席者：清野 宏（理事長）、岡 徹也、加藤茂孝、城野洋一郎、武内可尚、廣田良夫、中山哲夫 各理事  
浅野喜造、大隈邦夫、山西弘一（会長）各新理事  
神谷 齊、倉田 毅（次期会長）各監事

欠席者：加藤達夫（副理事長）、庵原俊昭、岡部信彦、奥野良信、喜田 宏、高橋理明、高見沢昭久、  
富樫武弘 各理事、  
上田重晴、田代真人、谷口清洲 各新理事

記録者：幸 義和（事務局）、石戸谷晃子・中川庸幸（株春恒社）

### 報告及び審議事項

1. 前回議事録の確認

清野理事長から前回理事会議事録の報告があり、本理事会で確認された。

2. 一般経過報告

理事長から会員数・ワーキンググループの活動を含む一般経過報告があった。

3. 第10回日本ワクチン学会学術集会について

会長の山西新理事から第10回日本ワクチン学会学術集会は平成18年10月21-22日、大阪(全日空ゲートタワーホテル・国際会議場)で開催予定であるとの報告があった。

4. 第11回日本ワクチン学会学術集会について

会長の倉田監事から第11回日本ワクチン学会学術集会は平成19年12月8-9日、横浜（パシフィコ横浜）で開催予定であるとの報告があった。

5. 日本ワクチン学会高橋賞について

清野理事長から日本ワクチン学会高橋賞の応募要綱についての説明があった。

6. ACIPの提案について

本提案に関して、加藤（茂）理事から厚生労働大臣宛の日本ワクチン学会単独提案書及び他学会との共同提案書の説明があり、審議された。その結果、ワクチン学会単独提案の方向で、本諮問委員会の設立についてより具体的な提案を盛り込んだ内容を引き続きワーキング委員が検討し、来年2月をめどに提出することを新理事会への申し合わせ事項とした。

7. 日本学術会議への申請について

日本学術会議法が一部改正され、それまでの「登録学術研究団体」は廃止され、平成17年10月に「日本学術会議協力学術研究団体」が設けられた。これに伴って日本ワクチン学会も日本学術会議への加入が審議され、申し込み申請を今月中に行うことが承認された。

8. 特許庁への申請について

一般会員より質問・依頼があった本学会の特許法の学術指定団体への加入について審議され、

今月中に申請を行うことが承認された。これにより特許法第30条の適用が受けられ、本学会で発表後「3ヶ月以内の特許申請」から「6ヶ月以内の特許申請」が可能になる。

9. ニュースレター・ホームページ関連報告

理事長より欠席の岡部理事に代わって中川氏から、ニュースレター・ホームページ関連の説明があった。理事長から来年1月発行予定のニュースレターに新理事長のご挨拶を掲載してはどうかとの提案があり、新理事長へ原稿の依頼を行うことになった。

10. Vaccineオンライン購読の準備状況

理事長から来年1月1日付けでVaccineの本学会学術誌化が行われ、Vaccineのオンライン購読が可能になるとの説明があった。会員への購読方法の案内については、次号ニュースレターへ同封することになった。また、多年度会費滞納者への購読可否については、毎年の学術集会前日の理事会にて会費未納による退会者を確認し対応していくことになった。2006年度からのスタート時点では現在の個人登録会員が購読可能とすることが確認された。

11. 新理事長と担当役員の選任

旧理事退席の上、新理事会役員のもと新理事長と担当役員の選任が行なわれた。

その結果、新理事長は山西弘一氏が選任され、理事の業務、理事長推薦理事（3名以内）の選出及び監事の選出は新理事長に一任された。

おわりに清野理事長から任期満了にあたり、ご挨拶と理事会メンバー、関係各位へ謝辞が述べられた。

---

## § 2006—2007年度 日本ワクチン学会役員について

〔理事〕

（理事任期：2004年1月1日～2007年12月31日）

庵原 俊昭	国立病院機構三重病院	（臨床応用系）
奥野 良信	大阪府立公衆衛生研究所	（疫学系）
加藤 達夫	聖マリアンナ医科大学	（臨床応用系）
喜田 宏	北海道大学	（基礎研究系）
城野洋一郎	（財）化学及血清療法研究所	（製造・開発系）
高見沢昭久	（財）阪大微生物病研究会観音寺研究所	（製造・開発系）
中山 哲夫	北里生命科学研究所	（基礎研究系）

（理事任期：2006年1月1日～2009年12月31日）

浅野 喜造	藤田保健衛生大学	（臨床応用系）
上田 重晴	（財）阪大微生物病研究会	（製造・開発系）
大隈 邦夫	（財）化学及血清療法研究所	（製造・開発系）
神谷 齊	国立病院機構三重病院	（臨床応用系）
田代 真人	国立感染症研究所	（基礎研究系）
谷口 清州	国立感染症研究所	（疫学系）
山西 弘一	（独）医薬基盤研究所（理事長）	（基礎研究系）

〔理事長推薦理事〕

(推薦理事任期：2006年1月1日～2007年12月31日)

荒川 宜親 国立感染症研究所 (基礎研究系)  
多屋 馨子 国立感染症研究所 (疫学系)  
堀井 俊宏 大阪大学微生物病研究所 (基礎研究系)

〔監事〕

(監事任期：2006年1月1日～2007年12月31日)

清野 宏 東京大学医科学研究所 (基礎研究系)  
倉田 毅 国立感染症研究所 (基礎研究系)

〔学術集会会長〕

第10回日本ワクチン学会学術集会 (会期：2006年10月21日～22日)

会長：山西 弘一 (独) 医薬基盤研究所 (基礎研究系)

第11回日本ワクチン学会学術集会 (会期：2007年12月8日～9日)

会長：倉田 毅 国立感染症研究所 (基礎研究系)

---

## § 第1回 (2006年) 日本ワクチン学会高橋賞応募のご案内

昨年11月1日より第1回 (2006年) 日本ワクチン学会高橋賞の候補者の公募を開始しております。応募希望の方は、下記の要綱に従ってご応募下さい。

**応募期間**：2005年11月1日 (水) ～2006年3月31日 (必着)

※必ず配達記録の残るものでご応募下さい。

**応募書類送付先**：〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階

(株)春恒社学会事務部内 日本ワクチン学会係

TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176

### 1. 本賞の趣旨

日本ワクチン学会高橋賞は、高橋理明先生の開発された水痘ワクチンが、財団法人阪大微生物病研究会によりほぼ全世界で実用化された事を記念し創設された。創設にあたり、同財団より高橋記念基金が当学会に寄贈された。日本ワクチン学会高橋賞は、本学会の創立趣旨に沿って学問的・実学的に卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。

### 2. 対象者

- 1) 本賞は本学会の創立趣旨に沿ってワクチンに関する基礎研究、臨床応用、製造開発、疫学研究において卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。
- 2) 原則として本学会会員とし、年齢制限は設けない。

### 3. 応募方法

以下の書類を揃えて(株)春恒社学会事務部内 日本ワクチン学会係まで、2006年3月31日 (金) (必着) にてお送り下さい。

- 1) 本会所定の申請書【原本とコピー7部を添付】
  - 2) 研究業績の要約(2,000字以内)【原本とコピー7部を添付】
  - 3) 研究業績リスト(別紙1枚以内)【原本とコピー7部を添付】
  - 4) 関連研究業績別刷(5編以内)各8部
  - 5) 自薦の場合には本人の研究についての抱負、他薦の場合は本会会員の推薦状1通(双方ともにA4版1枚まで)【原本とコピー7部を添付】
- ※1)～5)までを1セットとし、計8部を送付すること。  
※応募書類については、当学会ホームページ(<http://www.jsvac.jp/>)よりダウンロードして下さい。

#### 4. 選考と発表

- 1) 選考は理事長に加えて理事会で承認された学会員以外を含めた合計7名で構成する選考委員会で行い、委員会での決定事項は理事会での承認を必要とする。  
なお、受賞者が選考委員会で決着を見ない場合は理事全員の意見を求める。
- 2) 受賞は原則毎年2名とし、功労的なもの1名、基礎研究的なもの1名とする。
- 3) 日本ワクチン学会総会にて理事長より賞状及び副賞を授与する。
- 4) 総会において受賞者による記念講演を行うとともに当学会が指定する刊行物に総説を発表する。
- 5) 受賞者には2006年8月末までに通知いたします。

---

## § Vaccineオンライン購読について

2006年度より日本ワクチン学会学術誌としての「Vaccine」オンライン購読ができるようになりました。購読の手続きにつきましては、同封のご案内をご高覧ください。

---

## § 学会事務局変更のお知らせ

理事長の交代に伴いまして、平成18年1月1日より日本ワクチン学会事務局は、東京大学医科学研究所炎症免疫学から(独)医薬基盤研究所へ変更となりました。なお、学会の連絡窓口は、従来どおり(株)春恒社 学会事務部内 日本ワクチン学会係で変更ありません。

---

日本ワクチン学会ニューズレター 第10号

2006年1月20日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局  
〒567-0085 茨城市彩都あさぎ7-6-8 (独) 医薬基盤研究所  
日本ワクチン学会理事長 山西 弘一  
<http://www.jsvac.jp/>  
<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>  
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階  
(株) 春恒社 学会事務部内  
日本ワクチン学会係  
TEL: 03-5291-6231/FAX: 03-5291-2176/ E-mail: [jsvac@shunkosha.com](mailto:jsvac@shunkosha.com)

---